

## 四国地方交通審議会「四国の運輸あり方」フォローアップ部会開催 ～四国の活性化に向けて～

「四国の運輸のあり方」は、自家用車に過度に依存した四国の現状を見据え、公共交通の利用促進と観光振興、人にやさしい交通の実現に向けて、中長期的な展望に立った四国全体における総合的な運輸行政の基本的な方向性を示したもので、平成17年2月21日に四国地方交通審議会から答申されたものです。その進捗状況をフォローアップするために同審議会において設置された、『「四国の運輸のあり方」フォローアップ部会』が3月13日に高松市内において四国運輸局長、次長及び全部長が出席のもと開催されました。

同部会では、四国運輸局長木内大助の挨拶の後、部会長及び副部会長の選出を行い、部会長に井原健雄委員（香川大学名誉教授）が、副部会長に近藤光男委員（徳島大学工学部教授）がそれぞれ就任されました。

次に、事務局より、四国の交通、観光の現状説明や、答申に対する四国運輸局を始め自治体や交通事業者等による交通、観光の取組の進捗状況報告を行い、その中でも特長的な取組事例を抽出し説明しました。

続いて、自治体等の先進的な取組等について、交通に関しては、徳島県から「とくしまバスNavi」等、香川県から「エコ金デー」等、愛媛県からは交通事業従業員に対する教育などが報告されました。観光に関しては、徳島県より「バルトの楽園」ロケ施設の観光施設化等、愛媛県からはえひめ町並博後の地域の取組等、高知県からは大河ドラマ「功名が辻」放映に伴う土佐24万石博の支援等、四国観光立県推進協議会からは四国外各地における旅行商品の説明会活動など積極的な取組が報告されました。

その後の意見交換では、「ICカードの導入」、「通勤交通への公共交通利用促進」などの施策に対する評価、「公共交通の子供、高齢者に対する優遇措置」、「地球温暖化対策のための自家用から営業用トラックへの自営転換」、「船舶へのモーダルシフトのさらなる推進」、「パーク&ライド等を活用した車と公共交通が共生した社会が必要ではないか」等多数の貴重な意見をいただきました。

四国運輸局ではこれら意見等を踏まえ、今後とも答申に示された具体的事項の早期実現に向けて様々な施策を展開していくこととしています。また、「四国の運輸のあり方」は国の機関、地方自治体、経済界、そして一般市民に向けての提言であり、これらそれぞれの積極的取組に期待するところです。  
(企画振興部企画課)



《会議の様子》



《四国運輸局長挨拶》